

## その他の意見・質問について

質問番号	該当施策	意見・質問の内容	担当課
1	全体	<参考指標に関するご意見> ○参考指標自体が主観的要素が強く、数値のみの評価になじまないものがある。 ○参考指標の目標値の設定の仕方が妥当か判断できないものがある。	子ども総務課
		意見・質問に対する回答	
		現行の第二次プランの施策評価については、各取組・事業の実施状況や意識調査等の結果を踏まえた総合的評価を行うこととしており、今回の参考指標については、施策ごとの評価を補完するものとして示したものです。施策の評価方法および目標値の設定方法については、次期プラン策定に向けて見直しおよび検討を行ってまいります。	
2	1-3	意見・質問の内容	子ども育成課
		「放課後児童クラブ」と放課後子ども教室の連携強化のためのコーディネーター2名増員」とありますが、具体的にはどのような連携強化でしょうか。また、コーディネーターはどちらの部署に配置されているのでしょうか。	
		意見・質問に対する回答 連携とは、放課後子ども教室が地域の参画のもとに提供する様々な体験・交流・学習活動のプログラムについて、放課後児童クラブも参加しその貴重な機会を共有するなどを意味し、これが促進されるように、コーディネーターが橋渡し役として総合調整を行うものです。 なお、コーディネーターは、子ども育成課に所属する嘱託職員で、放課後子ども教室および放課後児童クラブを巡回し、現場職員に対する支援を行ってまいります。	
3	6-4	意見・質問の内容	子ども総務課
		不登校やひきこもりがどのくらいいるかわからないので評価しかねる。	
		意見・質問に対する回答 若者自立支援事業については、国が定義するひきこもりに限らず、社会参加に困難を有する若者を対象としているため、対象者数の把握は困難であると考えます。そのため、就職等自立する対象者数が増加するよう支援を促進してまいります。 ※不登校については、欄外(参考)のとおり。	
4	6-4	意見・質問の内容	子ども総務課
		【参考指標】職業体験の参加者数について、中間値がなぜ高い数値だったか分析する必要がある。中間値に比べ実績が6割以上減った理由を分析し、支援策を見直す必要がある。	
		意見・質問に対する回答 若者自立支援事業については、中間評価までに目標値に達成していたため、目標指標を修正したものであり、市内求人が増や平成29年度から開始した事業の成果等により職業体験を経ずに就職が決定する者が増加し、結果的に目標指標とした職業体験数が減ったものであります。	

(参考) 過去5年間の小中学校の不登校児童生徒数・在籍児童数・不登校出現率(学校教育課)

区分	項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	不登校数(人)	46	51	45	63	73
	在籍児童数(人)	14,875	14,545	14,396	14,109	13,891
	出現率(%)	0.31	0.35	0.31	0.45	0.53
中学校	不登校数(人)	215	206	243	246	289
	在籍児童数(人)	7,881	7,793	7,511	7,257	6,914
	出現率(%)	2.72	2.64	3.23	3.38	4.18

※年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。

※国調査(児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)に基づく数値